

2020. 4. 17

畑 啓之

海に近い畑はそれぞれに井戸を持っている 加古川市神戸製鋼所北の風景

写真は加古川市南部に広がる畑である。この辺りも例にもれず住宅開発が進んできているが、なんとか踏みとどまっている。この畑作で特徴的なのは、各畑が専用の井戸を持っていることである。



畑地の標高は約2m程度と思われる。井戸の水面は畑地の表面より1mは低い位置になる。さらに、この畑地の土質は田んぼの土とは異なり、かなり砂の割合が高いように見える。従って、水はけは非常に良いと考えられる。

井戸からくみ上げた水は速やかに畑地に吸収され、そして再び井戸へと戻っていく。おそらくはそうなる。昔はこの水くみ上げ作業を人手で行っていたに違いないが、現在はどの井戸にもポンプが付いている。

これと似た例が、書籍「千年の田んぼ 石井里津子 (2017年)」に記されている。この田んぼのある場所は、山口県萩市見島である。

加古川市のこの畑のある場所は、下の図で赤く塗られた部分のすぐ上 (北側) である。

ひろかずのブログ より 兵庫県加古川市の金沢新田

<https://blog.goo.ne.jp/hirokazu0630/e/3976dd6053f420dbb6f09d2f52ff53e4>

浜の風景 (4) ・金沢新田跡 (1)

赤く塗った部分が、江戸時代につくられた「金沢新田」です。

金沢家 (東神吉町砂部) に残る文書等から判断して、「金沢新田」は、天保四年 (1833) ごろからはじまり、天保八年 (1837) に完成したと思われます。

この時の新田は84町4反21畝の広大な新田でした。

この金沢新田とさらに別府の浜への拡張により神戸製鋼所は建設されました。



金澤新田は埋め立てられて神戸製鋼の敷地 (沿岸部 3 km、奥行き 2 km) となった。

